



OB会だより

国臨協OB会関東信越支部

平成27年 1月 1日

NO 61 号

発行責任者 小原 千秋

編集責任者 宮野 勝秋

国臨協関信支部OB会事務局

東京都調布市小島町3-89-4

TEL: 0424-86-6710

明けましておめでとうございます。OB会も今年で34年目を数えます。長い間継続できたのは、先輩諸氏のご苦勞と努力があつてのことと感謝申し上げます。会員数も100名を超え、大所帯となりました。(写真は横浜市緑区下長津田地区に江戸時代から伝わる

”どんど焼”風景

2014. 1. 13 宮野撮影)



2014. 1. 13 横浜市緑区長津田 下長津田神社どんど焼風景 撮影 宮野勝秋

昨年とは異常気象が続く中で、災害の当たり年だった。2月に日本列島は2週続けて豪雪と、地域が孤立したり多くの人が亡くなった。

積雪 114 cmを記録した甲府、143cmの河口湖。秩父地方は交通機関に完全マヒ。集中豪雨も日本各地で多発、8月に広島市北部の大規模土砂災害により70人以上が犠牲になりました。京都府福知山市は広範囲で冠水し床上・床下浸水が1千件を超えました。9月の御嶽山の噴火では戦後最悪の死傷者・行方不明者が発生し、火山の噴火は、桜島や阿蘇山等でも起こっています。蔵王山も注視され、吾妻山(福島県)・十勝岳(北海道)の噴火警戒レベル2に引き上げ小規模噴火の可能性ありと。台風も相次ぎ上陸し、7月の台風では最強レベルと言われた台風8号が襲来。日本各地で豪雨で多くの被害が出ました。8月には11・12号が続けて発生。猛威を振るい、10月には台風19号の900hpaという中心気圧の低さは世界中に衝撃を与えました。11月の長野県北部白馬の震度6の地震には驚いた。”災害はは忘れたころにやってくる。

アベノミクスという言葉がテレビ・新聞で

報道されています。その中で第1の矢・第2の矢は、効果があつて第3の矢は効果が出ていないとか、凡人にはわからないことが多い。

高齢化対策の財源が乏しく、介護保険の自己負担増を含む医療・介護費の値上げが急務とされ、年金も年々減少していく。年末に実施された衆院選は投票率は過去最低の52.66%にとどまり、予想通り自民党が大勝した。「与党の傲慢と野党の怠慢」か。会員の方には、体調を崩され入院・通院されている方や、足腰が悪く歩行困難な方が多くいると聞く。焦らず養生され早く回復されることを祈っています。OB会は、27年度から、会員の長寿を祝いささやかな記念品を贈ることにしました。(満80歳・85歳・90歳以上になられた方) また、OB会名簿も作成しますので、同封のハガキにそれぞれ必要事項を記入し送って頂きたいをお願いします。今年も、良い年になるように祈願し、これからの人生を身体に気をつけて楽しく過ごしていきましょう。”だめよ～だめだめ”無理しないで ありのままで・・・”東京オリンピックをこの眼で、この脚で”を第一目標に!!!。



独り言

飛田

卓哉



いまの時間は、金曜日の19時25分を少し回ったところです。東京駅を出発したばかりのバスのなか、右手にスカイツリーを見ながら、一路茨城の自宅へ向かっています。

今日も首都高速道路は混雑していてノロノロ走ります。「毎週金曜日はいつも混雑する」と運転手がつぶやいてくれました。首都高速道を抜けて三郷インターを通過して常磐高速道に入るとスムーズな走りになり高速道路を走っているなという実感が沸きます。今日は 月に1～2回帰省するうちの金曜日です。

私は現在、神奈川県海老名市で単身生活をしています。

湘央医学技術専門学校（神奈川県綾瀬市小園）の教員になり3年目を迎えています。当校は臨床検作技師養成を主に応用生物科学科と救急救命学科がある養成学校です。

教員になり現職時代とは全く別世界の変化に富んだ毎日に追われています。年の差が半世紀も違う学生たちと交わるには気力・活力に加え体力が必須条件だとヒシヒシと感じながら毎日を送っています。

自宅と勤務地のアクセスはいつもバスを利用しています。乗り換えがなく実家の近くまで運んでくれるのもつばらこの方法を利用しています。バスに乗り乗り込むや否やマックで買ったコーヒーとハンバーガーを口にしてお腹を満たしホッとして爆睡します。2時間少々で降車駅を知らせてくれるので便利な乗り物です。世の中が便利になったもんだと実感しながら我が家へ辿り着きます。時計が9時を少し回ったところを針が指しています。

仏壇に帰宅したことを報告し、夕食となります。

この時が至福の時間でもあります。勤務地からの開放感、長旅の被れやトシのせいなど諸々が重なり一気に噴き出すためでしょうか？・・・

現職の時も同様の生活リズムであったので、それほど苦痛に感じないのですが「年を取ったな！ジジイになったな！」とモノスゴク（茨城弁？）感じます。

さて、当校の教員となり、まず篤きは現代の学生の勉強に対する姿勢や生活態度が私の時代とはあまりにもかけ離れてすぎていることにまずビックリです。私から見ると現代っ子は宇宙人です。（学生側から見ると私は宇宙人に見えるとのことです。が・・・）

毎日が宇宙人と宇宙人の交流をしている状態です。（勿論、一部の学生であることは申し上げるべきことでもないのですが・・・）

現代っ子はクラスの友達と会話よりもスマートフォンが密接な友達であるかのようにスマートフォンとはよくニラメッコしております。休み時間ともなると一斉にスマートフォンと会話？（通話）をしています。1人暮らしやクラスなどの療境に慣れないという面を考慮しでもスマートフォンとの密接な関係は少なくとも我が家の夫婦以上の関係じゃないかと感じています。

最も世の中が電車やバスのなか、はては「歩きスマホ」という新語まであるくらいスマートフォンとは密接な関係ですので、学生が真似をするのは当然 といえば当然なのかも知れません。

今回はほんの一部を紹介しましたが、私から見ると全てが別世界です。毎日が宇宙人との交流です。でも卒業して資格取得をし医療人の一翼を担える人材を育てたいと思いつつ老体に活を入れています。ノ次ページ続

「今思うこと」

斎藤信一

71回目の秋を歳相応の健康体で迎えた。この季節は昔を思い出し、老残の日々を考える小生にとっては年の始まりでもある。

小学校時代は遊ぶ、叱られる、食べる、寝る。中学になって初めて勉強が心配になり、努力をしたが長続きせず、そのまま目覚めることもなく30歳が過ぎ、40歳で入院したが他人事のようになってしまった。時は止まることもなく「もう50歳か・・・」と思った矢先、2度目の入院をした。その時、妻が医師から伝えられた言葉は「危篤、2、3日が峠です」とのことだったそうです。

人間はうまくできている。快復してしまうと「喉元すぎれば熱さを忘れる」で、当時は「老い」について考えることもなく、ましてや、その恐怖心など湧いてくるはずもない。しかし、時はナマケモノ（動物）が着実に一步一步進むがごとくゆっくりと、ある時は大河のように滑らかにゆったりと流れ近づいてくる。いつしか60歳後半になり肉体的に衰えを感じ、命に限りがあることを感じ始めたのを思い出す。

そして、10年ごとの節目となる71歳（今年）に吐血し、その量の多さに、妻に「だめかもしれないの」の一言と、救急隊の「多量吐血、別救急隊の応援をお願い・・・」迄は記憶にある。幸いに、現役時代に勤めていた施設の多くの方々の「人とし

て、医療人として」のすばらしい対応により一命を取り留め、感謝に堪えません。

この様に、身を以て知ったことでも時間の経過とともに記憶が薄れ、遠い水平線上に浮かぶ「蜃気楼」の様になりつつあります。

このところ、親の躰け「働け、働け・・・働かざる者は食うべからず・・・」が燃料になっているのか、油の切れかかった機械のように「ギイ、ギイ・・・」と軋みながらゆっくりと動き出します。某作家が「老い」を「夏休みの宿題」にたとえていたことを思い出す。「まだまだ大丈夫だと油断しているうちに旧盆が来る。急に寂しくなる。休みの残り日を数える。今更遅いやと、あきらめる。暈の上に寝転がる。ならば、休み最後の日はどうだろう。茄子の濃紺の表面には秋の露が結んでいる。風は涼気を運び白熱の光と塩の味は全て遠い記憶だ」この様に、誰しものが黄昏時を迎えることになるだろう。

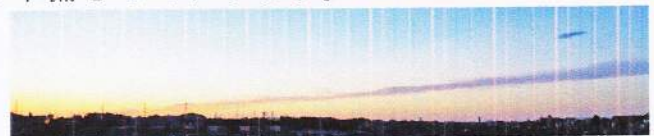
やり残しもまだまだある。年は否めない。たとえ「日暮れて道遠し」でも、命ある限り「日はまた昇る」を信じて老残を過ごしたい。そして、別れの時には一言「有り難う」を告げて終わりたい。



→明朝は6時から百姓です。地下足袋と作業服に着替えて草取りです。2～3週間帰省しないと畑一面がジュウタンを敷いたように雑草が育っています。

当校の学生もこのくらい成長すると楽しいが・・・などと独り言をいいつつ草取りが始まります。土曜日の1日を百姓に費やし、日曜日は普段出来ない雑用を処理しながらリフレッシュしています。

現在、私がこのようなことが出来るのも現職時代にお世話になった皆様方々への恩返しと私のようなオッチョコチョイな技師を排出しないためにも・・・と心に刻みながら明日からまた新たな気持ちで海老名へ向かう準備をしております。



近時雑感 1

杉澤頼昭

教師の派遣費用、文具、教科書、制服、給食や運営のための人件費、維持費のすべてを公益法人 SAJ が負担しますが、これに協力してくださる社員以外の方が急速に増加していることに、嬉しさを抑えきれません。こんな嬉しいことを書き綴れる日が続くことを願うばかりです。

私の第二の人生も 7 年目の半ばを過ぎました。退職と共に臨床検査の世界から身を引くことを決めていたこともあり、「団塊の世代」の一人として「超高齢化社会」にどのように関わるのか、超高齢化社会の当事者の一人として自身をどのように処するべきかと考える中で、高齢者の生活の場に身を投ずることにしたのです。いよいよ職場を選択することになったのですが、5 つの事業体の説明を聞き現場見学をしても運営姿勢に経済的側面ばかりが目につき、自分の思いとの乖離が大きく再就職を決断できませんでした。そんな時、新宿で開催された介護フェスティバルに参加した際、「ワタミの介護」という聞きなれない会社のブースでとても熱心に説明している男性の声に引かれて、説明を受けている方の後ろで聞いてみると、他の会社では聞くことが出来なかった「介護への思い」を熱く語っており、これこそが自分の求めていたことでした。～ホームはご入居様様の幸せのためだけにある～自分の両親にしてあげたいと思うことは、すべてしてあげよう～自分の両親にして欲しくないことは、絶対にするのはやめよう～高齢者の方々の笑顔を自分の喜びにさせていただこう～この理念こそが介護の現場に欲しかったことでした。実際には簡単なことではありませんが、これを実現しようとする思いがなければ介護施設を運営すべきではないとさえ思っています。今や 500 万人近くが認知症と診断され、さらに、MCI(軽度認知障

害)も 400 万人を超えています。私の勤務する「介護付き有料老人ホーム」では平均年齢が 87 歳、居室はすべて個室で 145 室、ご入居様様の 3 割が認知症です。要支援 1、要支援 2、要介護 1 から要介護 5 までの 7 段階に分類されますが、平均介護度は 2.7 です。看護師は 24 時間常駐していますが、医師はおりません。ご入居と同時に複数のクリニックの中から主治医を選んで契約します。主治医はホームからの連絡で 365 日、24 時間対応します。ですから看取りにも主治医が駆けつけます。認知症と聞くと、まず物忘れが頭に浮かぶ方が多いと思いますが、強い物忘れを伴わない認知症もあります。最も多いのがアルツハイマー型認知症ですが、認知症を引き起こす病気は 70 種類もあると言われていいます。また、加齢による物忘れと認知症による物忘れは異なります。例えば、夕食に食べた物を思い出せないのが加齢による物忘れなのに対して、夕食をとったこと自体を忘れてしまうのが認知症だと言えます。認知症の発症や悪化を防ぐために気をつけたい体調管理のポイントとして「脱水・便秘・不眠・低栄養・かぜ・骨折」などが上げられます。このために役立つのが「筋トレ」です。全身を使う水泳などは最適な運動の一つですね。歩く速度が遅くなる、歩幅が小さくなるなどは予兆と考えましょう。

今、第三の人生として NPO 法人を立ち上げる準備をしています。勤務させていただいた病院でお世話になった医師や看護師の方や、大学で心理学を指導している方の協力を得て、高齢者自身や高齢者を抱えるご家族のカウンセリングを行う予定です。



横浜市緑区
に伝わる
お囃子風景
(宮野撮影)

近時雑感 ②

杉澤頼昭

岩波書店発行の日本古典文学大系 82「親鸞集 日蓮集」の中、日蓮上人の「立正安国論」を開いています。殆どの方はお読みになったことがないと思います。

『旅客来たって嘆いて曰く、近年より近日に至るまで、天変・地天・飢饉、疫病・遍く天下に満ち、広く地上にはびこる。牛馬巷に斃れ、骸骨路に充てり、死を招くの輩、既に大半を超え、之を悲しまざるの族、敢えて一人もなし。……』

この「立正安国論」は、時の国主・北条時頼(最明寺時頼)に対してあてた、国家国民を安泰ならしめるために、国主の行いを諫めた諫暁の書です。

当時、鎌倉時代の正嘉元年 8 月 23 日、前代未聞の巨大地震が発生しました。それ以来、来る年も来る年も、大風・大洪水・大旱魃・大飢饉・大疫病が打ち続き、国中の過半が死に絶えるという惨状が現出しました。今、3.11の東日本大震災以後、毎年起こっている大災害を見聞きし、700 年前の「立正安国論」に書かれている状況と酷似していると思い起こしたのです。近年の災害時によく耳にする言葉は「想定外」「観測史上最大」「50 年に一度」などがあります。自然災害が巨大化する一方で、人の心の荒廃も凄まじいものがありますね。子供に対する虐待、凶悪犯罪の多発。佐世保で起こった高1女子学生の事件などは、人の心を失い悪鬼が身に入ったとしか言いようのない事件です。

まさに「世も末」であります。「世も末」とは、地球上に出現した「最後の釈迦仏(釈尊)」が入滅してから 2 千年以後のことで「末法」とも言います。西暦では 1059 年頃ではない

でしょうか。釈迦自身が弥勒菩薩を筆頭とする直接の弟子を集めて、末法では自分が 42 年間教えた総ての経文の力が消滅し、年を追うごとに世は乱れ、人心は荒廃し、天変地異は激しくなり、地球上の争いは規模が大きくなると預言したのです。そして、末法に入ってから 500 年の間に新たに本物の仏が現れて、力を失った経文ではなく「法華経」を広める。その人は「国中から避難を浴び」「刀で切られ、杖で叩かれ、石や瓦を投げつけられる」。さらに「たびたび流罪に処せられる」と法華経の中に預言していました。地球上に日蓮以外には、このような人物は歴史上存在しません。こうして日蓮は「既に仏力・法力を失った経文を捨てて法華経を信じなさい」と諫めたのが「立正安国論」です。

東日本大震災は日蓮が入滅してから 730 年後でした。それ以来、毎年、大規模な自然災害が多発し、人心の荒廃は目に余るものがあります。政治の世界では、原発の安全性を誰も保障せず、それなのに再稼働に前のめりになっています。曰く、原子力規制委員会は、基準に基づいて審査し適合していると判断しただけで、安全とは言っていない。稼働を許可するかどうかは政府の仕事だと。政府は政府で、稼働するかどうかは電力会社が判断することだと。電力会社は基準に適合していると認められ、国から許可が出れば再稼働すると。三者とも責任をなすりつけているだけです。片方では、ギャンブル依存症が世界で最も多いこの国にカジノを造るといふ。この国の政治家は本当に国民の幸せを考えているのでしょうか。議員という地位と役職のポストと利権しか考えていないように感じます。

近時雑感 ③・④は次号に掲載します。

探しびと(人)になりました

さとう おとかず

ときは平成 26 年 6 月 7 日。小粒の梅雨が容赦なく傘をたたく。その中を市ヶ谷私学会館を目指して急ぐ人がある。国臨協 OB 会総会出席の人びとだ。



久し振りの再会組肩を叩き合って無事の健闘を祝い合う。今日はどうしたのかあの千両役者 油井さんの姿が見えない。いつ勉強したのか国見さんの議長振りが会場を沸かしながら会をすすめてゆく。小原会長の緊張した目が輝いている。いつものとおり宮野さんの



発想だろうか派手の横文字幕が美しい。努力の結晶だろうと思う。その他の役員の方がたも忙しい。

ところで指折り数えてみたら、私が国立医療関信管内の臨

技定年者就職案内口数は 32 口に達していた。1 人で 2 口という人もいる。商売じゃあない。

総会次第は順調に消化。やがて司会者から



93 歳の老人よひとことと指示が出た。

ヨタヨタと杖こそないが 93 歳の老人は檀上へ。そしてひとこと。「これまで 32 口第 2 の人生の方がたを紹介してきた。

職業紹介とか職業あっせん」などといったら「職業安定法令に違反するのではないか」との心配が頭内をよぎった。「紹介料の有無に

かかわらず業として人を仕事に紹介すれば違反で悪質者は罰金か？」

「挨拶せよ」の司会者の指示ゆえにひとこと(探し人(びと)になる)。会司会者の指示に従わず勝手に「ご賛同のお方は拍手を」と叫ぶ。そりゃあ賛同の拍手はするだろう。本日ご出席の方がたは賛成しようとしまいと痛くも痒くもないんだから。暴言多謝大部分は冗談だから。



「ここなら採用するだろう」と思い会社の門を叩く。人事課長らしい人、時に社長さんに逢うこともある。会社側は言う。「当社にも定年制はある。自社の 60 才を切り、他の紹介の 60 才を採用する。自社の者は社内精通。紹介者ははじめて。佐藤さんどう思います？」と皮肉にも逢ったことも。

「ここなら採用するだろう」と思い会社の門を叩く。人事課長らしい人、時に社長さんに逢うこともある。会社側は言う。「当社にも定年制はある。自社の 60 才を切り、他の紹介の 60 才を採用する。自社の者は社内精通。紹介者ははじめて。佐藤さんどう思います？」と皮肉にも逢ったことも。

ある友人曰く「佐藤さん何の目的があり、何の関係があって無料の職業探しをするの？」私は答えた。「戦後何の資格もない頃から、立法・改正・地位の確立を目指してみんなで苦勞しているとき、会員の皆さんが支えてくれた。この頃の病細協(今の国臨協)役員は 90% 以上が天国に召されている。私 1 人がこうして生きている以上多くの故人分まで含めて今の人達に恩返しをしなければならないからだ」と。これは本音です。会社からはビタ 1 円もいただいてはいない。採用会社へのひとこと。

「お礼といって 100 円いただいても、もらったことになりますから」と断わっている。これは採用された人たちが、その潔白は聞いている筈。謝金をもらって恩返し。そりゃあないだろう。

(注；タイトルは小原会長が作製しました。)

(1) 国臨協関信支部OB会総会風景



(2)

懇親会風景



新入会 宮崎澄夫氏

懇親会開宴



乾杯の音頭 杉崎氏

"東京オリンピックをこの"



(3)写真で見るOB会懇親会風景



(4) 写真で見る懇親会風景



(5) 写真で見る近況報告風景



(6) 近況報告風景



(7)

カラオケ風景



(8) みんなで歌おう歌風景



(9) みんなで歌おう歌風景



終了です

お知らせ

今年から長寿者に記念品を

平成27年6月の総会で、27年中に満80歳・85歳・90歳以上になれる方の長寿を祝い、記念品を贈ります。下記迄ご連絡下されば幸甚です。又は同封のハガキにその旨記入下さい。

**おたん生日
おめでとう**

東京都調布市小島町3-89-4

TEL: 0424-86-6710

E-mail: obarac2002@yahoo.co.jp

小原千秋宛

会員住所録作成にご協力を

会員名簿作製のため調査を致しますのでお協力下さい。同封のハガキにて記入の上平成26年1月末日までに投函下さるようお願い申し上げます。

E-mail: obarac2002@yahoo.co.jp

小原千秋宛

平成27年度より会費が値上がります

平成26年度総会に於いて年会費が1,000円値上が承認され、3,000円になりますので、宜しくお願いします。

年金が切り下げられ、消費税は上がり円安で諸物価が値上がり、会員の皆様も苦しい事情かも知れませんが、宜しくお願いします。

お詫び

会報60号 平成26年春の叙勲

福島光夫さん（元甲府病院臨床検査技師長）瑞宝双光章を受賞されました。

福島 利光さんの誤りでした。訂正してお詫び申し上げます

広報担当 宮野勝秋

編集後記

現在住んでいる横浜市緑区の長津田地区は、旧大山街道の宿場町として栄えた歴史的財産に富むまちです。近世には矢倉沢往還（国道246号/東名高速道路/東急田園都市線）と神奈川道（横浜市道都市計画道路山下長津田線/JR横浜線）の結節地であった長津田宿が発展。1843年（天保14年）153戸。1868年（慶応3年）176戸926人。1869年（明治2年）145戸950人。1891年（明治24年）220戸1,397人。1939年（昭和14年）395戸。1980年（昭和55年）6,154世帯18,942人。2014年（平成26年）9月30日現在16,980世帯38,000人、横浜開港後、上州・信州・甲州産の絹糸の集散地である八王子から横浜港へ輸送する中継地として発展。明治20年代以降、副業として養蚕が盛んになる。大正期以降、東京・横浜などに向けての商品野菜の栽培が増加。昭和40年代以降、鉄道・道路の開通に伴い、東京急行電鉄等による宅地開発や神奈川県住宅供給公社等による住宅団地造成が促進し人口が急増した。一面の写真は下長津田神社の古く江戸時代から伝え、正月の行事無病息災を祈願した”どんどん焼”の風景で有る。平成26年1月13日私も初めて見る風景をビデオ撮影、ビデオから静止画の一枚である。宮野勝秋